

## 8. 碑および史跡

### えとも 絵鞆遺跡 (絵鞆岬展望台付近)

噴火湾を望む絵鞆岬の付近には、数多くの遺跡が残されています。エンルム・チャシと呼ばれるアイヌの人たちの祈りの場であるチャシの跡、縄文文化からアイヌ文化までの貝塚やお墓などが残されています。

### 先住民慰霊碑 (絵鞆岬展望台横)

絵鞆岬の高台にあるこの慰霊碑は、昭和37年(1962)9月にアイヌの人たちの祈りの場であるチャシがあったこの地に、開港90年・市制施行40年を記念して建立されました。

この碑は、アイヌ模様が碑面に施されており、吹く風が“ヒューヒュー”と鳴るように設計されています。



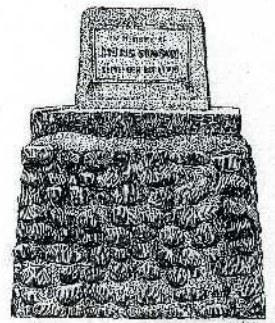
### 築港殉職碑 (祝津町・室蘭港湾事務所横)

大正7年(1918)着工の南・北防波堤工事(昭和2年に終了)では殉職者13人、昭和33年(1958)着工の外防波堤工事(昭和39年に終了)では殉職者12人と、25人もの尊い犠牲者を出しています。室蘭の発展とともにあった港を築く際に殉職した方々の慰霊のため、昭和42年(1967)、室蘭港湾建設事務所が同所の裏に犠牲者25人の名を記した「殉職碑」を建立しました。

### ハンス・オルソンの慰霊碑 (大黒島内)

寛政8年(1796)、英国船プロビデンス号が寄港の際、デンマーク人の水兵ハンス・オルソンが、作業中に倒れてきた木の下敷きになり亡くなったため、遺体をこの島に葬りました。

昭和30年(1955)、室蘭ロータリークラブの年次大会を記念して建立しました。



### プロビデンス号来航記念碑 (水族館敷地内)

寛政8年(1796)、ヨーロッパ・アジア間の貿易路「北西航路」探検のため、南太平洋から北太平洋へ、蝦夷と樺太、千島の探検航海を続けていた、英国船プロビデンス号(ウィリアム・ロバート・プロートン船長)が、天然の良港(現在の室蘭港)を発見しました。航海記『北太平洋探検の航海』に、「エンデルモ(エトモ)・ハーバー」と記載し、広くヨーロッパ諸国に紹介しました。

このことが今日の国際拠点港湾への出発点であったことを記念して、昭和30年(1955)9月、室蘭ロータリークラブが建立しました。(プロビデンス号の来航...9ページ参照)

ぎょらんかんのん  
魚藍観音像 (水族館敷地内)

昭和33年(1958)立雲寺住職の林瞬祥(しゅんしょう)や土木建設業者らが、水族館敷地内の旧防空壕跡に建立した観音像です。

ごじょうかんおんせいせき  
明治天皇御乗艦御聖跡碑 (室蘭通船(株)横)

明治14年(1881)9月4日、明治天皇が北海道巡幸で室蘭に行幸(ぎょうこう)され、山中旅館に一泊後の翌日午前7時35分、諸艦の礼砲のこだまする中、天皇は波止場からお召し艦「迅鯨(じんげい)」に御乗船、一路対岸の森町へと向かわれました。

これを記念して、当時の波止場(現在の緑町、白川商店)向かいにあった旧国鉄管理部辺りの一角にこの碑が建立されましたが、後の道道拡張工事に伴い、現室蘭通船(株)横に移設されました。

きんじょう  
今上天皇陛下御上陸記念碑 (室蘭開発(株)前)

昭和11年(1936)、陸軍大演習のため、昭和天皇が行幸の時に、この場所に上陸されたことを記念して、同12年に市が建立しました。

当時は、このあたりが波打ち際で陸棧橋があり、沖に停泊している船に渡り船などで、乗下船していた場所です。(当時の今上天皇陛下は昭和天皇)

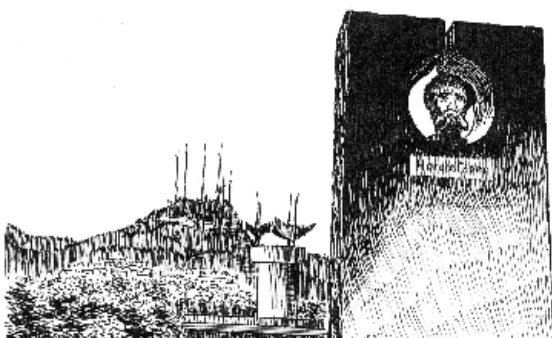
明治天皇聖跡碑 (入江臨海公園内)

明治14年(1881)9月4日、明治天皇が北海道巡幸で室蘭に行幸されました。このとき宿泊された山中旅館跡(旧室蘭駅舎向かいの階段を上った右側、現海岸町2丁目2)に、昭和5年に聖跡碑を建立しましたが、同57年入江臨海公園内に移設しました(道路から海に向かって左側)。

ホーレス・ケブロン顕彰碑 (入江臨海公園内)

ホーレス・ケブロン(1804 - 1885 米国)は、北海道開拓使の顧問で、明治5年(1872)から同7年に北海道を調査し、室蘭港が天然の良港であることを認め、港湾改修・道路開発・鉄道敷設を進言しました。

室蘭港の基盤を作ったともいえるケブロン  
の功績を称え、期成会が中心となって碑を建  
立し、平成3年(1991)7月、市が寄贈を受けまし  
た。入江臨海公園の噴水のそばに、ブロンズ  
像が埋め込まれた高さ2.1mの黒御影石(くろみ  
かげいし)の碑が建っています。



## 艦砲射撃慰霊碑（室蘭八幡宮境内）

終戦間近の昭和20年(1945)7月14、15日の2日間、アメリカ太平洋艦隊第38機動部隊による室蘭空襲と艦砲射撃が行われ、戦後、経済安定部が発表したところによると、市民だけでも393人が犠牲になっています(アメリカ国立公文書館にある室蘭市提出の記録文書では、2日間で市民だけでも439人が犠牲)。ほかにも、軍関係者に相当な犠牲者が出ています。

この犠牲者を慰霊するため、昭和34年(1959)7月15日に市が建立しました。中島本町の公園内などには市民の手で建立された慰霊碑があります。(空襲と艦砲射撃...15ページ、艦砲射撃慰霊碑...41ページ参照)

## 忠魂碑（室蘭八幡宮境内）

日清戦争(1894～5)と日露戦争(1904～5)における本市出身者の戦没者慰霊碑として、明治44年(1911)、当時の帝国在郷軍人会室蘭町分会が有珠湾の自然石を使って建立しました。

ほんだあらたおうしょうとくひ  
 本多新翁頌徳碑（文化センター前）

明治9年(1876)、小学校設立運動を起こし、中央町の旧北海道銀行室蘭支店辺りの民家を借り、20人余りの児童で開校したのが、室蘭市の教育の発祥であり、常盤小学校の始まりです。その後、何度か移転を繰り返し、明治31年(1898)、現在の文化センターが建っているところに、8学級464人で常盤小学校の新校舎が完成しました。

これらの偉業を称え、室蘭の教育の祖ともいえる本多新の碑が、昭和26年(1951)9月に建立されました。また、同氏は当時、北海道では数少ない民権運動家としても知られていました。

## 仏坂招魂碑（NHK横の崖上）

明治5年(1872)、室蘭の夜明けを告げる室蘭と札幌間の札幌本道開削工事が、つち音高らかに始まりました。しかし、岩盤質の山を崩して道を切り開く工事は難行を極め、多くの人夫が犠牲になり、この工事場付近に一時仮埋葬されました。このため、だれ言うとなか名付けられたのが「仏坂」でした。昭和7年(1932)「市役所通り」と改められましたが、今なお「仏坂」の名で呼ばれています。(仏坂...54ページ参照)

かつて「行こか幕西、帰るか母恋、ここが思案の仏坂」という歌がありました。これは、母恋に社宅があった日鋼社員が、自宅に帰ろうか、遊郭街のある幕西に行こうかと、鬼気もせまる仏坂の手前で迷う姿を冷やかしたものです。

明治43年(1910)、この工事の犠牲者と同40年から42年の日鋼の工場敷地の開削や工場建設の犠牲者の慰霊のため、仏坂を見下ろす丘に招魂碑を建立しました。

じゅんしよくしょうへい  
 海軍殉職将兵者納骨塔と礼拝記念碑（モトマリ墓地内）

昭和10年(1935)9月、白老沖で発生した巡洋艦「足柄」の砲塔爆発事故で殉職した黒木大尉以下16名の乗組員および巡洋艦「那智」「最上」、駆逐艦「秋風」の乗組員の英霊を祭った納骨塔と、この納骨塔を軍艦「迅鯨」の乗組員が全員で礼拝したことを永久に記念して、同12年に礼拝記念碑が建立されています。

### 天沢泉と明治天皇御巡幸記念碑（御傘山神社境内、御前水公園内）

明治14年(1881)9月、明治天皇が北海道巡幸の際、この地で休息され、コンコンと湧き出る泉の水を召し上がったことを記念して、明治44年(1911)、この地を「天沢泉」と命名し、日本製鋼所が中心となって御傘山神社境内に記念碑を建立しました。

大正11年(1922)の町名改正の折り、御膳水にちなみ、この付近一帯を御前水としました。また、昭和11年(1936)に、同神社向かいにある御前水公園内に「明治天皇御巡幸記念碑」を市が建立しました。

### 艦砲射撃殉職者慰霊碑（御崎神社境内）

平成25年(2013)、御崎町会によって新しく建立された艦砲射撃殉職者の慰霊碑です。艦砲射撃で亡くなった同町会の人を慰霊するため、戦後間もなく個人が建立した慰霊碑が始まりで、昭和41年に建替え後、御崎神社境内に移され、同神社の祭典と合わせて慰霊祭が行われています。(空襲と艦砲射撃...15ページ参照)

### 明治天皇<sup>おんのだてしよ</sup>御野立所記念碑（ユースホステル前 潮見公園内）

明治14年(1881)、明治天皇の北海道巡行のとき、室蘭入りした天皇は、まず、室蘭港を一望できるベシボッケ(崖下の所という意味)の上、現在のみゆき町、潮見公園駐車場付近で、お休みになりました。これを記念して昭和4年(1929)、在郷軍人輪西分会の発起で建立されました。(野立所とは、天皇の野外での休憩所のことです。)

### 宮沢少佐遭難記念碑（ユースホステル前 潮見公園内）

昭和6年(1931)6月、樺太調査のため飛行中の偵察機が、濃霧のため不時着に失敗しイタンキ浜に突入しました。このときに殉職した宮沢少佐を追悼するため、同12年、墜落した現場に碑を建立し、その後、同60年(1985)に、墜落した場所の見える現在地に移転しました。

### 中国人<sup>じゅんなんれっし</sup>殉難烈士慰霊碑（汐見トンネル登別入り口上の海側）

第2次世界大戦中の昭和19年(1944)から同20年にかけて、多数の中国人を強制連行し、日本各地で労働をさせました。

本市には、1,855人が強制連行され、重労働であったことなどから、わずか半年あまりの間に564人が亡くなりました。昭和47年(1972)9月の日中国交回復を記念し、日中両国の永久的友好と永遠の平和の願いを込めて、同49年9月、イタンキ墓地にあった慰霊碑を市民の手により再建立したものです。

### 輪西屯田兵記念碑（中嶋神社境内）

明治新政府は、明治6年(1873)、土族救済と北海道の開拓・警備を目的に屯田兵制度を作りました。室蘭には、明治20年(1887)と同22年の2度にわたり、鳥取・愛媛・兵庫・福岡・佐賀・石川の各県から総数220戸、1,109人が当時の輪西村（現在の幌萌町～知利別町～輪西町）に入植し、未開の荒地や泥炭地であった蘭東地域の開墾に従事しました。現在のまち並みにも、当時の屯田兵による地割りが多く残されています。

兵村と練兵場のあった中嶋台地、現在の中嶋神社境内には、屯田兵たちの開拓の苦勞をしのび、明治42年(1909)屯田兵ゆかりの人達によって、高さ7.6mの青銅製鉾形(ほこがた)の詩情豊かな記念碑が建立されました。このブドウツルクサ図の浮彫りの碑は、後に芸術院会員

となった明治期工芸界の第一人者、香取秀真(かとりほずま)の鑄造で、碑文は、大正天皇に漢字を進講した小牧昌業(こまきまさなり)です。

また、境内には明治19年、中隊本部建設の際、建てられた木造平屋建て切妻(きりづま)造り、建坪3.2坪(約11㎡)の旧火薬庫がほぼ原形のまま残っているほか、神社社務所内には屯田兵着用の軍服・軍帽・食器・中隊ゆかりの印鑑などが展示されており、記念碑や火薬庫と共に、室蘭市指定文化財になっています。

#### 艦砲射撃慰霊碑 (中島本町公園内)

昭和20年(1945)7月15日の艦砲射撃で犠牲となった方々の慰霊のため、中島社宅民和会が同34年(1959)3月31日に建立しました。毎年7月15日に慰霊祭を行っています。

#### 輪西村開拓記念碑 (本輪西神社境内)

明治3年(1870)、仙台藩の一門である角田領主 石川邦光が、明治政府から室蘭郡の支配を命じられ、家臣など51人を移住させ開拓を行いました。今日の室蘭隆盛の基礎となったことを記念して、大正8年(1919)に旧家臣などにより本輪西神社境内に建立されました。

#### かん ひ いずみせんせい の ひ 閑斐泉先生碑 (崎守町)

閑斐泉先生とは、明治30年代から40年代にかけて室蘭の教育界に大きな足跡を残した、元室蘭小学校の初代校長 泉致広(いずみむねひろ)のことで、慶応元年(1865)に磐城国伊具郡角田町(宮城県角田市)に生まれ、明治2年(1869)室蘭に入植した仙台藩角田領・石川邦光の家老職だった泉忠広の長男です。父についてわずか4歳の幼少の身で室蘭開拓に加わりました。同23年(1890)に小学校教員の免状をとり、当時教育の外側にあったアイヌの子弟の教育に尽力し、これが内外に認められ、文部省選奨を受けています。

明治42年(1909)に45歳の若さで病没しました。

大正4年(1915)12月、村民や教え子らの手によって、かつての元室蘭小学校校庭跡の一角に碑が建立されました。碑文は風化していますが、致広の生涯とその業績が漢文で刻まれています。「人非麵包耳而生者焉(人はパンのみにて生きるに非ず)」は、致広が信条としていた言葉で、人柄を語るに最たるものです。

#### 史跡 東蝦夷地南部藩陣屋跡モロラン陣屋跡 (陣屋町民俗資料館裏)

幕末の安政2年(1855)、江戸幕府は蝦夷地(北海道)の沿岸警備を東北地方の諸藩に命じ、函館恵山岬から幌別の間は南部藩の担当とされました。同3年、ペケレオタ(明るい砂浜の意味)と呼ばれていた陣屋町の現在地に、内外二重の土塁からなる長方形の出張陣屋(本陣屋は函館)が構築されました。

当時の室蘭地区は、エトモ場所やモロラン会所が置かれた要地で、追直に見張所を設置し、ポロシレト(崎守神社の上)と対岸のエトモ、そしてペケレオタに砲台場を設け、この出張陣屋と併せ、港内に侵入しようとする外国船を追い払うという布陣で警備が行われました。当時は、大砲方や鉄砲武者といった武士が駐屯していましたが、明治元年(1868)旧暦8月、明治維新の際、郷里の盛岡に引き上げました。

昭和9年(1934)、国の史跡として文化財指定され、同43年(1968)から47年にかけて、史跡公園として平面復元をはじめ整備が行われました。陣屋跡には、当時藩士らが植えたとされる杉や、藩士を葬った墓地などがあり、往時をしのぶことができます。